

# ハゲタカジャーナルにご注意を！



## ハゲタカジャーナルとは？

不当で高額な掲載料を要求する利益最優先の出版社が少なからず存在する。このような出版社は”predatory publishers”と称され、predatory＝略奪するという意味から、それらが出版する粗悪な学術雑誌はハゲタカジャーナルと呼ばれている。

- 十分な査読を経ず論文を掲載し、不当な掲載料を請求する。
- 有名雑誌に似たジャーナル名をつけている。
- 掲載料や編集方針を明確に公表しない。
- 研究者に投稿を勧めるメールを頻繁に送付する。

## ハゲタカジャーナルに投稿したら？

ハゲタカジャーナルに誤って投稿してしまうと、次のようなリスクを抱えることになる。

- 当初提示された論文掲載料よりも高額な請求事例があるなど、不当な掲載料の支払いを要求される。
- 一旦投稿すると撤回を応じない事例があり、「二重投稿」になるため他誌に発表できない。
- 論文が掲載されれば、自身の業績に対する評価や信用を下げることになる。
- 論文が掲載されれば、所属機関の社会的な評判を下げることになる。

## どうしたらハゲタカジャーナルに巻き込まれない？

健全なジャーナルを見つけること。見つける方法は次のとおり。

- 学会出版業界のホワイトリストを確認する。
  - ◆「DOAJ: Directory of Open Access Journals」: 編集委員の確認ができていて、所定の条件を満たしたジャーナルのみを掲載。
- ブラックリストを確認する。
  - ◆Beall's List of Predatory Journal and Publishers: ハゲタカ出版社とハゲタカジャーナルのリスト。
- チェックリストを確認する。
  - ◆「Think, Check, Submit(日本語版)」: 信頼できる雑誌を選ぶためのチェックリスト。
- 収録基準を有する学術文献データベースを確認する。
  - ◆Scopus(エルゼビア社): 収録誌を確認する。
  - ◆Journal of Citation Reports(クларivate・アナリティクス社): インパクトファクターを確認する。

※ 詳細は、「図書館通信 No.59 ハゲタカジャーナルを知ろう！！ ～ハゲタカジャーナルに巻き込まれないために～」をご覧ください。